

むつ市議会「議会報告会及び市民との意見交換会」報告書

報告会名称	第4回 むつ市議会 議会報告会及び市民との意見交換会 (第 2 班)
開催日時	平成28年11月 6日(日) 午後 2時 00分 開会 午後 3時 45分 閉会
開催場所	むつ市中央公民館
出席議員等	佐々木 隆徳 菊池 広志 菊池 光弘 濱田 栄子 村中 徹也
参加人数	3名
報告内容	議案第46号 むつ市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例 平成27年度むつ市各会計決算審議について
報告に対する 質疑・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・歳入の税収が3割で歳出が多いので、今後むつ市が良い方向へ行くにはどうすればいいか。 ・ごみ袋の値上げは決定したのか、いつ上がるのか。 ・税金の収納率向上で財源が増えるのではないか。公平公正に徴収したらどうか。
意見交換内容 (主な意見・ 要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性が薄い場所、時期に排雪をしている。無駄なことに議員や町内会長といった肩書きのある人が圧力をかけているのではないか。 ・議員さんも議会が終わったら、「・・・こうなった」、「・・・このように発言した」、「・・・生活はこうなる」、「・・・負担になる」となる説明会を開いたらどうか。 ・市民は議員さんと膝を合わせて忌憚なく語りたい。 ・大湊地区の過疎化を防ぐ手立てはあるのか。どうにかしてほしい。 ・大湊地区の上町と浜町の融雪溝を平等に整備してほしい。 ・大湊地区のエココースト事業の今後はどうなるのか。 ・大湊地区の発展のため自衛隊の規模を拡大してほしい。 ・大湊地区で観光客に紹介できる食堂(レストラン)がない。

<p>意見交換内容 (主な意見・ 要望等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安渡館やその周辺、海軍カレーや海軍コロッセをもっとPRしてはどうか。 ・海軍コロッセの値段が高い。 ・市民も議会にもっともっと興味を示さなければならないし、議会もレベルアップが必要である。
<p>記録者所見</p>	<p>「市民の本音」と題して。今回参加された市民は、「私たちも悪かった」、「私たちはもっと提言すべきだった」、「市民が変われば議会も変わる」等々、前向きの姿勢からの発言であった。今まで、議会とか行政に示さなかったことに反省しつつ、これからは「やるぞ〜」との頼もしい意見と気概に満ちていた。いずれの哲学に立脚するかにより議論は深まり、良好な関係が構築されることを感動とともに教えられた。これから双方とも後悔という後ろ向きの議論より、反省という前向きの姿勢で接し合えば今以上に醸成されるだろう。今回の参加者に感謝。感謝。</p> <p>「議員の相」と題して。議員の三大相をご存知だろうか。ここでは記さないが……。まさしく今回議会側はこれを露呈したのではないか。関連するが「……予算がない」、「……自分もそうだ」、「……無理だ」等々の返答は質問者に不謹慎である。質問者にその場で納得させるような答弁は二代表制の趣旨に反するので絶対にしてはいけない。その場で納得させる機能は議員には持ち合わせていない。すなわち行政府の使い回しでないのだから、「……予算確保に努力する」、「……一緒に仕組みを変えよう」、「……前例はそうだが、今回から変えよう」、「……無理かどうか一緒にやってみよう」等々の、行政側と対峙する姿勢、すなわちアイデンティティを示さなければならないのではないか。得して意見交換会に参加する市民はそういう答弁と政治姿勢を求めているのでは……。</p> <p>結論。市民は、「斯くあるものとしての議員の本質」と「斯くあるべきものとしての議員の本質」のどちらを重視すべきなのか。本質からすると二つの意味は大きく相違するが、「斯くあるべき」は固定化、理想論なので実際社会では通用しないのは自明の理である。「斯くあるもの」は、「行為における淵源」を重要視するが「行為からの派生（副産物）」は問題としないことから、議員の本質の考察に適しているのではないか。</p> <p>市民との意見交換会の実態として、どの会場でも「同少人数、同意見、</p>

記録者所見	<p>同苦情、同人物、同批判」等々の「金太郎飴」状態が繰り返されているようだ。解消法の一つに市民も議員も視座に着眼すれば同じ価値観になるだろう。市民との意見交換会が「市民から信頼される仕組み」の構築に即効薬を持ち合わせているがペンを置くことにする。</p> <p>記録者氏名 _____ 村 中 徹 也 _____</p>
-------	---

むつ市議会議長 様

むつ市議会議会報告会及び市民との意見交換会の実施に関する規程第10条第1項により提出します。

平成28年11月10日

代表者 菊池 広志 ㊞